

授 業 科 目	初等教育特論 A ―こどもの安心安全な生活環境―		
単 位 数	2	授 業 形 態	講義
担 当 教 員	赤松 純子・本村めぐみ・山本 奈美・今村 律子		
実 施 日 ・ 時 間	4月18日(土) 10:00~17:00 (本村・赤松)		
	4月25日(土) 10:00~17:00 (山本・赤松)		
	5月16日(土) 10:00~17:00 (山本・赤松)		
	6月13日(土) 10:00~17:00 (今村・赤松)		
【講義内容】			
<p>教材研究の視点として教材およびその周辺分野に関する知識・技術も、特に学力向上や基礎学力の定着を目指す場合、大きな武器になると考える。そこで「こどもの安心安全な生活環境」を中心にすえて、教材の中核と周辺部に関する知識・技術の習得をめざし、3つの内容を手がかりに教材研究能力および副教材開発能力の向上を図りたい。</p> <p>こどもの安心安全な生活環境を、「消費生活」の立場から見通しながら、</p> <p>「家族」では、「家族を科学する」</p> <p>「食物」では、「食情報とつきあう」</p> <p>「被服」では、「着ごち」</p> <p>を検討する。</p> <p>教科書に描かれる食卓を囲み「だんらんする」家族のすがた。それは今日を生きる私達にとっての現実か？それとも一つの規範か？あるいは願望や幻想なのか？生涯を生きる上で、人と集って「家族する」意味とは何であるのか。現代家族のありようは一律ではない。刻々と変化している家族の実態を新たな科学的知見から見つめ直し、子どもの感性に伝わる「家族」授業を展開するための視点も含めて提示する。グループ討議、演習なども含めて行う。</p> <p>「食情報とつきあう」では食と健康、食と安全性の2つを取り上げる。「何をどれだけ食べるか」「食べ物の安全性が保証されているか」は安心して健康的な生活を送るうえでの基本となるが、食と健康の関係や食べ物の安全性に関する情報が世の中にあふれている現状では、その情報に振り回され、かえって健全な食生活が脅かされることが危惧される。望ましい栄養や食事のとり方、食べ物の安全性について基本的な知識を踏まえうえて具体的な食情報を検証することにより、その問題点を検討したい。</p> <p>「被服」では、衣生活の安全・安心に関わる事項を取り上げる。学校現場における児童の服装が、生活活動上、安全や健康にどのように関わるかを衣服の形、素材などから学習し、教科内にとどまらず、「小学校における児童の生活全般」を配慮できる教諭の育成に貢献するための基本情報を提供する。</p>			
【テキスト・参考文献】			
授業中に適宜紹介する			
【事前学習】			
特になし			